

いもち病・カメムシ類の発生に要注意!

1. いもち病

いもち病の早期発見・早期防除に努めましょう!

6月中旬以降いもち病の感染好適日が数日あり、湖北地域でも葉いもちの発生を認めています。葉いもちは穂いもちの発生源となります。例年いもち病が発生しやすいほ場を中心に見回り、発生が認められた場合は必要に応じて防除しましょう。※7/6 発表の防除情報第6号参照

2. 斑点米カメムシ類

防除は出穂10日後頃(粒剤は出穂7日後頃)に行いましょう!

○生育状況と防除時期

本年は畦畔における斑点米カメムシ類の発生が多い傾向にあります。適期防除に心がけ、遅れないように注意しましょう。

薬剤防除の適期は、出穂7～10日後です。粒剤を施用する場合は、田面を露出させない程度に浅く湛水して、散布しましょう。



写真：滋賀県病害虫防除所

※7/6 発表の防除情報第5号参照

○斑点米カメムシ類の防除時期の目安

品種	移植時期	出穂期予想	防除時期	
			粒剤	粉剤・液剤
みずかがみ	4月下旬～5月上旬	7/20～22	7/27～29	7/30～8/1
コシヒカリ	5月上旬	7/27～7/29	8/3～5	8/6～8

「みずかがみ」は、防除時期が「コシヒカリ」より早いので注意!!

雑草管理が不十分な畦畔でイネの出穂期以降に草刈りを行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになり、被害が増大する恐れがあります。やむなく行う場合は、薬剤防除直前に実施しましょう。